

アラスカ事情

1. 州の成立の経緯

(1) 1784年にロシアはコディアック島に拠点を築き、1799年にはアラスカをロシア領として宣言した。当時のアラスカでの主要産業は毛皮の交易で、この毛皮の交易の利益を独占することがロシアの主眼であったが、後に、乱獲により毛皮の交易は衰退した。

米国は1867年に、このロシア領のアラスカをロシアから買収した。買収当時はアラスカの買収はあまり評価されなかったが、後に、金を含む天然資源が発見されたことで、アラスカの地政学上の利点が見直され、その重要性が認識された。

アラスカは1912年5月11日に準州になり、後に、石油が発見されたことなどから、1959年1月3日には準州から昇格され、米国の49番目の州になった。

このような経緯から、アラスカ州には、インディアンやエスキモーといった先住民族やロシアの統治の時代の影響がまだ残っている。

(2) アラスカは、イヌイト語の「広大な土地や半島」(Alakshak)に由来するといわれている。

(3) 州都は、南東部にあるジュノー (Juneau) であるが、人口の規模は州内で第3位である。

2. 人口 (2014) 【2015年：アラスカ州政府 (推定値)】

- (1) アラスカ州 735,601人
アンカレジ市 300,549人

【米人口総数：318,857,056人 (2014年：米国勢局)】

(2) 人種、種族の比率

- ・白人 66.9%
- ・先住民族 22.5%
- ・アジア系 13.9%
- ・アフリカ系 9.1%
- ・ヒスパニック系 6.7%

(参考)

<主要都市の人口の推移> 【2010年：米国勢調査】

都市	2010年	2000年
アンカレジ	291,826人	260,283人
フェアバンクス	31,535人	30,226人
ジュノー	31,275人	30,711人
シトカ	8,881人	8,835人
ケチカン	8,050人	N.A.

3. 地理

(1) 位置

アラスカ州は、南部は太平洋、北部は北極海に面し、カナダとロシアとの国境に接している。州土の3分の1が北極圏にある。

(2) 州面積

57万600平方マイル（約147万8千km²）で、米国土総面積の16%に及ぶ最も広大な州である（テキサス州の2倍強、又は、日本国土の4倍弱）。

(3) 行政区分

州政府は、州内区分を6区分（南東部アラスカ、中南部アラスカ、西南部アラスカ、内陸部アラスカ、最北部アラスカ、アリューシャン列島）、又は、18区分する方法を採用している。

(4) その他

①北米大陸で最高峰のマッキンリー山（6,194m、アラスカでは「デナリ」と呼ばれることが多い）があり、標高が上位16位までの高山は全てアラスカ州にある。また、ユーコン大河（米国で3番目に長い）は、カナダのブリッティッシュ・コロンビア州からベーリング海まで流れている。

②ベーリング海の「ベーリング海峡」の命名は、一説には1741年にオランダ人の冒険家ベーリングが、シベリアからアラスカに渡り探検したことから、その名にちなんでいるとされる。

4. 中心都市（アンカレジ）の気候

特 色	南側では太平洋沿岸で暖流が流れており、北側ではアラスカ山脈が北風を防ぐので、気候は比較的に温暖で、乾燥しさわやかである。
気 温	夏季は摂氏10度～21度。冬季は摂氏-14.4度～-6.7度。
雨 量	年間平均降雨量はcm（69インチ）。降雪期は10月～4月。

5. 政治

(1) 連邦議員

- | | |
|-----------------|------------------------------------|
| (ア) 上院議員 (2 議員) | リサ・マーカウスキー (共和党)
ダン・サリヴァン (共和党) |
| (イ) 下院議員 (1 議員) | ドン・ヤング (共和党) |

(2) 州知事 ビル・ウォーカー (無所属)

(3) 州議会 上院 20 議席 (共和党 14、民主党 6)
下院 40 議席 (共和党 23、民主党 16、無所属 1)

6. 軍事

- (1) 陸、海、空軍及び海兵隊：約 22, 000 人 (海軍及び海兵隊も若干名)
- (2) 州兵 (軍)：約 4, 700 人 (予備要員を含む)
- (3) 沿岸警備隊：2, 300 人

<アラスカ州の米軍基地>

① アンカレジ

- エルメンドルフ及びフォート・リチャードソン統合基地
 - ・ エルメンドルフ空軍基地 (第 673 航空基地、第 3 航空団、航空団第 11 空軍)
 - ・ フォート・リチャードソン陸軍基地

② フェアバンクス

- フォート・ウェインライト陸軍基地
- アイルソン空軍基地 (第 354 戦闘集団)

③ デルタ・ジャンクション

フォート・グリーリー基地 (地上配備型迎撃ミサイル基地)。迎撃ミサイル (GBI) を 26 基配備。

7. GDP (2014年)【2015年：アラスカ州経済調査分析局】

(1) GDP 構成

アラスカ州の GDP は、571 億ドルであり (2013 年比 +1.3%)、主な分野としては、①石油・ガス、②軍・政府、③運輸が、それぞれ 25% 超、18%、10% の割合を占める。

(2) 1 人あたりの GDP

1 人あたりの GDP は約 66, 100 ドルである (全米第 1 位)。これは、州の人口規模に比し石油及び鉱物などの分野での生産性が高いためである。

<特徴>

- ① GDP は、石油・ガスの価格変動の影響で生じやすい。
- ② 過去のデータから、アラスカ州では GDP の変動は、州の経済、特に雇用や所得にあまり影響を及ぼしていないとされている。

8. 産業

(1) 石油・ガス産業

アラスカ州は、テキサス州（全米1位）及びノース・ダコタ（全米2位）に次ぐ原油の生産量を誇る。原油関連の収入は、州政府歳入の約90%を占めるため、石油産業は州にとって重要な産業となっている。主な原油の生産地は北端のノース・スロープ（大油田地域）とクック・インレット湾である。原油は、北端のノース・スロープからアラスカ湾のバルディーズまでアラスカ縦断石油パイプラインにより輸送され、ワシントン州やカルフォルニア州の石油精製所で精製されている（州内でも若干の精製がなされる）。天然ガスは、主にクック・インレット湾で生産されている。

ノース・スロープでの原油の生産は、1988年のピーク時の200万バレル／日から2014年には50万バレル／日まで減少している。

近年、ボーフォート海やチュクチ海で、シェル等の民間企業によるオフショア油田開発の動きが見られるが、未だ採油の段階には至っていない。

(2) 鉱物・石炭産業

アラスカ州では、金、銀、銅、亜鉛、鉛、石炭などの生産が盛んで、アラスカ州の鉱山は世界でも大きな生産量を誇っている。GDPに占める鉱業のシェアはそれほど大きいわけではないが、鉱物の探査、開発、採掘の総生産高は、経済面で大きな役割を果たしている。

(3) 水産業

水産業分野の就労者数は州の就労人口（民間）の5分の1を占めていることから窺えるとおり、水産業もアラスカ州の重要な産業の一つになっている。アラスカ州の水産資源は豊富で多種にわたっており、また魚類の養殖が州法により禁止されていることが、大きな特色である。種類は、サーモン、カニ、エビ、ニシン（数の子）に始まり、スケソウダラ、オヒョウ、カレイ、アカウオ、ギンダラ、マダラなどまで広範囲に及ぶ。

アラスカ州では日系企業が加工工場を開設しており、特にアリューシャン列島にあるダッチハーバーは、マルハニチロや日本水産系の日系企業による水産加工業が盛んである。

(4) 観光業

アラスカ州は大自然の魅力に溢れている。マッキンリー山やユーコン大河をはじめとする山河や10万以上存在する氷河、海洋動物、陸生動・植物、オーロラなど観光資源の宝庫であり、米国本土のみならず諸外国からも観光に大勢訪れている。

州政府の調査では、2011年の夏季に100.5万人、冬季に25万4000人の観光旅行客がアラスカを訪れている。

(参考)

「夏季」の観光旅行者の国別内訳（2011年）

北米（含カナダ）	1,402,700人（90%）
外国人旅行者	154,100人（10%）
欧州諸国	64,000人
イギリス	33,000人
ドイツ語圏	20,000人
その他	11,000人
オーストラリア・NZ	42,000人
アジア諸国	18,000人
日本	6,000人
韓国	2,000人
メキシコ	8,000人
その他	22,000人

(5) 国際航空貨物（2010年）

アンカレジ国際空港は、北半球の主要都市から3～8.5時間の飛行距離に位置していることから、国際貨物航空のハブ港として発展してきた。年間貨物取扱量を比較すると、アンカレジ国際空港は、香港、メンフィス、上海、インチョンに次いで世界第5位となっている。

東アジアから米国本土に向かう貨物航空機は、できる限り多くの貨物を積むこともあり、アンカレジ国際空港に必ず立ち寄り給油する必要がある。また、東アジアから中南米に向かう航空路線上にもある。これらの観点から、アンカレジ国際空港は日本にとり重要な空港である。

9. 貿易（輸出）（2014年）【2015年：米国勢局】

(1) 輸出高

51.53億ドル（成長率：13.8%）。

(2) 主な輸出相手国

主な輸出相手国は、第1位は中国（14.62億ドル）、第2位は日本（10.23億ドル）、第3位は韓国（6.70億ドル）、第4位はカナダ（5.15億ドル）、第5位はドイツ（3.21億ドル）である。

※対日輸出の詳細は、次の「10. 日本との関係（2）対日輸出」を参照。

10. 日本との関係

日本はアラスカにとり距離的に近く、これまで良き経済関係を享受してきたことなどから、日本に対し親近感を持つ州民が多いと言われている。アンカレジには、小、中、高校のあわせて13年間の日本語一貫教育制度が存在する（日本語で授業を行う「エマージェン・プログラム」）。

(1) 日系企業

(ア) 水産関係

マルハニチロの子会社（Alyeska 社、Westward 社）や日本水産の子会社（Unisea 社）が、アリューシャン列島のダッチハーバーに工場が置かれている。

(イ) 天然ガス（LNG）

資源エネルギー（REI：Resources Energy, Inc）社が進出している。

(ウ) 鉱物資源

住友金属鉱山がポゴ金山を運営している。

(エ) 国際貨物

アンカレジに日本貨物航空（NCA）社が事務所を開設している。

(オ) 旅行業

アンカレジに日本人経営の旅行社は3社ある。

(2) 対日輸出（2014年）

アラスカ州の対日輸出は10.23億ドルで、前年から48.7%成長している。伝統的に、日本はアラスカ州の最大の輸出相手国であったが、2011年に中国が最大の輸出国に取って代わった。

<2014年の対日輸出の主な内訳>

・海産物	5.25億ドル
・鉱石	2.39億ドル
・石油・ガス	2.21億ドル
・木材	0.20億ドル

(3) 日本人観光旅行者

日本からの観光旅行者は、夏季は登山やフィッシング、冬季はオーロラを観賞等で、年間13,000人が訪れている（日本からの直行便が、シーズンあたり20便運航されている）。

(4) 各都市の在留邦人数(2014年10月1日現在)

在留邦人数は、575人(うち永住者は497人)であり、主要都市の在留邦人数は、次のとおり。

アンカレジ	305人
フェアバンクス	90人
コディアック	35人
アナラスカ(ダッチハーバー)	12人
イーグルリバー	18人
ジュノー	8人
ワシーラ	11人

(5) 日本との姉妹都市関係

秋田県秋田市=キーナイ半島郡(1992年1月22日)
北海道帯広市=スーアド市(1968年3月27日)
北海道紋別市=フェアバンクス市(1991年2月8日)
北海道根室市=シトカ市(1975年12月19日)
北海道千歳市=アンカレジ市(1969年4月21日)
北海道天塩郡天塩町=ホーマー市(1984年4月7日)
北海道常呂郡佐呂間町=パーマー市(1980年10月28日)
岐阜県下呂市(旧金山町)=ケチカン市(2005年6月15日)

()内は締結年月日

(6) 和田重次郎

厳冬のアラスカ各地に犬ぞりのトレイルを開拓した犬ぞり遣い。1875年愛媛県周桑郡小松町で生まれ、松山で育つ。

2015年5月に愛媛県松山市のアマチュア劇団「みかん一座」が、和田重次郎の生涯をミュージカルにし、アンカレジ及びフェアバンクスにおいて上演した。

ちなみに、和田重次郎縁の愛媛県内子町(重次郎の母親の故郷で、現在も重次郎の末裔が暮らしている)とワシーラ市との間では、文化交流を含む友好関係構築に向け、2015年4月に内子町からの代表団がワシーラ市を訪れている。